

平成31年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成31年3月4日（月曜日）

議事日程第3号

平成31年3月4日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 20名

〈出席議員〉 20名

1番	平澤	惣一郎	君	2番	東野	恭行	君
3番	山本	剛	君	4番	吉川	慶一	君
5番	五十嵐	健一郎	君	6番	滝川	正義	君
7番	佐藤	孝	君	8番	新保	峰孝	君
9番	田原	実	君	10番	保坂	悟	君
11番	笠原	幸江	君	12番	斉木	勇	君
13番	中村	実	君	14番	大滝	豊	君
15番	田中	立一	君	16番	古川	昇	君
17番	渡辺	重雄	君	18番	松尾	徹郎	君
19番	高澤	公	君	20番	吉岡	静夫	君

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市	長	米田	徹	君	副	市	長	兼	務	藤	田	年	明	君																		
副	市	長	木	村	英	雄	君	市	民	部	長	兼	務	山	本	将	世	君														
産	業	部	長	見	辺	太	君	総	務	課	長	渡	辺	成	剛	君																
企	画	定	住	課	長	渡	辺	孝	志	君	財	政	課	長	大	沢	喜	昭	君													
能	生	事	務	所	長	土	田	昭	一	君	青	海	事	務	所	長	猪	又	功	君												
市	民	課	長	小	林	正	広	君	環	境	生	活	課	長	五	十	嵐	久	英	君												
福	祉	事	務	所	長	川	合	三	喜	八	君	健	康	増	進	課	長	横	澤	幸	子	君										
商	工	観	光	課	長	大	嶋	利	幸	君	農	林	水	産	課	長	池	田		隆	君											
建	設	課	長	五	十	嵐	博	文	君	復	興	推	進	課	長	斉	藤		喜	代	志	君										
会	計	課	長	大	久	保	岳	生	君	ガ	ス	水	道	局	長	木	村		清	君												
消	防	長	丸	山	幸	三	君	教	育	長	井	川		賢	一	君																
教	育	次	長	磯	野	茂	君	教	育	委	員	会	こ	ど	も	課	長	磯	野		豊	君										
教	育	委	員	会	文	化	振	興	課	長	兼	務																				
博	物	館	長	兼	務																											
市	民	会	館	長	兼	務																										
教	育	委	員	会	こ	ど	も	教	育	課	長	石	川	清	春	君	教	育	委	員	会	生	涯	学	習	課	長	小	島	治	夫	君
中	央	公	民	館	長	兼	務																									
市	民	図	書	館	長	兼	務																									
監	査	委	員	事	務	局	長	伊	藤	章	一	郎	君																			

〈事務局出席職員〉

局	長	松	木	靖	君	次	長	山	川	直	樹	君
主	査	上	野	一	樹	君						

〈午前10時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、6番、滝川正義議員、15番、田中立一議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第2、一般質問を行います。

1日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原実です。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

1、地域医療の現状と課題、産婦人科等の確保など行政対応について。

最近厚生労働省が示した新指標によれば、新潟県は適正な医師が確保できていない「医師少数県」に分類され、しかも岩手県に次ぎ国内で2番目に医師が不足していることがテレビ・新聞で大々的に報道されました。課題は医師の偏在と、外科医や産婦人科医のなり手が少ないことによる診療科偏在で、糸魚川市でも人口減少著しい中、医師不足による診療科の確保、特に産婦人科の確保が大きな課題です。

また、慢性的な看護師不足が解消されていく兆しが見えるのはまだ先と思われるなど、上越や富山の医療機関からは遠い糸魚川地域医療圏域での医療体制確保は、綱渡りの状況がずっと続いています。糸魚川市でもこの状況が改善に向かうことを願い、新潟県糸魚川地域振興局と連携し、医療・福祉関係者とともに医療体制確保の行政対応に努めていただいておりますが、その現状とこれからの取り組みについて、この機会に伺います。

(1) 「糸魚川地域みんなで支える地域医療講座」の内容と成果について伺います。

(2) 人口減少からの影響が最も心配される産婦人科の存続について伺います。

(3) 糸魚川市で暮らす、働く魅力を打ち出し、移住、定住戦略はもちろん、広域的に医師、看護師、医療スタッフを確保する取り組みについて伺います。

(4) これからの医療体制確保のための条例制定について伺います。

2、「ブラタモリ」はなぜ来ない。

糸魚川ジオパークの戦略・運営の問題点と市民理解について。

(1) ジオパーク事業の成果について伺います。

(2) ジオパーク事業の収支について伺います。

(3) 人気テレビ番組「ブラタモリ」は、まさに糸魚川ジオパークのためのものと感じますが、なぜ糸魚川が取り上げられないのでしょうか、伺います。

(4) 珍しい地形・地質・鉱物に限らず、糸魚川市に固有な文化である民俗芸能、食文化、歴史

街道を生かすために、行政はこれまで何をしてきたのでしょうか、伺います。

(5) 24 ジオサイトと集落や地域とのかかわりについて、住民の理解や協力について伺います。

(6) 筒石・徳合ジオサイトにおけるジオパークの要素、ロック・グリーン・カフェを楽しむツアーの展開について、しだれ桜の街道を生かした住民イベントへの支援、筒石駅の活用について伺います。

(7) 蓮華・平岩ジオサイトにおけるジオパークの要素、ロック・グリーン・カフェを楽しむツアーの展開について、蓮華温泉、木地屋の里の活用と運営への支援について伺います。

(8) 国内有数のアウトドア用品メーカー、スノーピーク社等からのジオパークの活用のアドバイスを受けることについて伺います。

3、糸魚川市の責任で進める復興再生事業、雁木の街並み、にぎわい創出広場、にぎわいの拠点施設等の整備について、被災者や住民が要望する地場産食材マーケット、まちなか図書館等の整備について。

(1) 街並みのシンボルとされている雁木の連続性と統一感について伺います。

(2) にぎわい創出広場及び建物の機能改善、運営シミュレーション、仕様・仕上げ、建設費削減などについて伺います。

(3) 12月定例会でも質問しましたが、被災者の方や近隣住民の皆さんからの要望について伺います。

①新鮮な食材が買える施設の設置について伺います。

②日常的なにぎわい創出について伺います。

③まちなか図書館と相馬御風学習館の設置について伺います。

④駐車場の設置と管理運営について伺います。

(4) にぎわいの拠点整備について、市民会議の成果とこれからの取り組みについて伺います。

(5) 設計、コンサル、まちづくり会議などの外部委託にかかる費用と成果、及び発注者である行政の責任について伺います。

(6) 木下斉著「凡人のための地域再生入門」に見られる行政事務主導型まちづくりの弊害は糸魚川にはないか伺います。なお、行政事務主導型まちづくりの弊害とは、著書の中に、「最悪なのは人の予算を活用して、いつまでも勉強会をやるだけ、ワークショップをやるだけでみずから事業には全く取り組まない人たちです」とあることから、このことを私は行政事務主導型まちづくりの弊害として考え、糸魚川市もこのような状況に陥っているのではないかと心配し、この点を伺うものです。

(7) 糸魚川の若者たちがみずから考え、つくり、運営する復興再生事業への支援について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今年度は、4回シリーズの講座で地域医療の現状の理解を深める内容となっており、住民・医療・行政が協働した取り組みを考える有意義な場となっております。

2点目につきましては、少子化が進んでおりますが、市内の施設で出産する割合は増加いたしております。市内産婦人科利用促進プロジェクトが評価され、来年度も産婦人科医師2名体制が維持できる予定であり、今後も関係機関と連携をし、医師確保に努めてまいります。

3点目につきましては、医療スタッフを市外から広く募集するため、関係機関と連携して取り組んでまいります。

4点目につきましては、みんなで支える地域医療推進事業で、それぞれの役割をまとめ、次年度につなげております。

2番目の1点目と2点目につきましては、日本ジオパークに認定された平成20年度以降、ジオパーク推進費にかかる支出の決算総額は、約4億6,700万円であり、成果といたしましては、郷土愛や合併後の一体感の醸成、ジオパーク学習や防災・減災教育の推進、地域資源の保護及び活用、教育旅行等による地域振興のほか、交流人口の拡大など一定の経済効果があったと考えております。

3点目につきましては、今後、番組に取り上げていただけることを期待をいたしております。

4点目につきましては、歴史や文化は、ジオパークの理念に含まれており、糸魚川ジオパークの大きな魅力の1つとして、パンフレットやホームページ等による情報発信、看板や標柱の整備、ツアーやイベント等の支援を行っております。

5点目につきましては、自治会や地区公民館、学校等が主体となり地域資源を生かした活動が行われており、今後もこのようなかかわりを広げていく必要があると考えております。

6点目と7点目につきましては、各ジオサイトの魅力を楽しむには、ロック・グリーン・カフェの切り口は有効な手段の1つであると思っておりますが、地域の皆さんからのご意見をお聞きしながら取り組む必要があると考えております。

8点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議でつながりのある白馬村で事業展開がされていることから、今後連携の可能性について検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、景観・不燃化ガイドラインに即した形で建設いただくよう機運の醸成を図ってまいります。

2点目につきましては、施設が効果的に活用されていくように、運営方法を検討していくとともに経費についても削減に努めてまいります。

3点目の1つ目につきましては、身近な場所での生鮮食料品が買える場所という要望はありますが、現在でも近隣に食料品等のお店が営業されております。

2つ目につきましては、人々が楽しく集い、町なかに人の流れがある状態にすることと考えております。

3つ目につきましては、まちづくりの主役となる市民を交えて位置づけや役割、機能について今後エリア全体のまちづくり構想を検討する中で考えてまいります。

4つ目につきましては、大規模な駐車場は難しく、分散型で進めていかななくてはならないと考えておまして、土地の有効利用と町なかの回遊につながるため分散させる形での計画をいたしてお

ります。

4点目につきましては、市民会議でいただく提言とともに、まちづくりの主役となる市民を交えて位置づけや役割、機能について、今後のエリア全体のまちづくり構想の策定を進めてまいります。

5点目につきましては、広場関係の設計等で約4,500万円、リノベーションスクール等で約850万円となっております。成果といたしましては、市民レベルでの活動が生まれてくると評価をいたしております。

6点目につきましては、大火という災害特性上、早期再建を望む声が多く、都市基盤の整備を中心にこれまでも被災者の声をもとに行政が中心となって進めてまいりました。これからのまちづくりの局面では、民間主導が望ましいと考えており、まちづくりをみずから進めていく市民の活動を支援してまいります。

7点目につきましては、やりたい人、やる人が考えたまちづくりを実践できるような支援をしていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域医療の2回目の質問です。

新潟が医師少数県と報道されたことは大きなショックがありました。糸魚川圏域は、県内でも医師・看護師が不足する地域。今後の地域医療体制確保が困難との認識が市民の中で強まったのではないのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

おはようございます。

新潟県の医師不足について報道等により改めて強く認識されたものと考えております。人口10万人当たりの糸魚川市の医師数を県と比較しますと少ない状況でありますし、また看護師も不足している状況ですので、当市にとって医師・看護師確保は喫緊の課題であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医師不足は、糸魚川に限らないことです。新潟県地域医療構想には、県内7つの医療圏域それぞれの現状と課題が記載され、糸魚川圏域の課題が出されていますが、医師不足への対策はどうなっているか、いま一つ踏み込んでいないのではないかと。県のことは言いにくいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

二次医療圏における地域医療構想調整会議の中でも委員より医師確保の厳しい現状が報告されております。医師は都市に集中して地方で不足する偏在が進んでいることから、現在取り組んでいる確保対策に加えまして、国における偏在解消対策の早期実現に向けて県と連携して要望してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

みんなで支える地域医療講座のこの講座の成果について、この機会に詳細にご説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

みんなで支える地域医療講座の参加者が救急、在宅、病院での医療について講師の話聞き、講師との話し合い、質問への回答の還元などを積み重ねることで現状や課題を知ることができたこと、また糸魚川での医療の頑張りや強みを理解できたこと、糸魚川のよさを実感するとともに、行動するきっかけにつながったことなどが挙げられます。参加者の中には、もっと市民全体に知ってもらえるようにと行動に移している方もおられます。少しずつですが、広がりを見せておりますので、継続することが大事であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

伺います。

みんなで支える地域医療講座では、産婦人科の存続についての話し合いがありましたか。また、今後の見通しはいかがですか。できるだけ詳細にご説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

みんなで支える地域医療講座の中では、話し合いはありませんでしたが、平成28年度から取り組んでいる市内産婦人科利用促進プロジェクトは継続して実施しておりまして、大学からも評価をいただいております。糸魚川総合病院の産婦人科医師からは、糸魚川総合病院での出産率が増加しており、来年度も医師2名体制が維持できることは、このプロジェクトの効果でもあることから、

今後も引き続き一緒に取り組みをしたいと積極的なご意見をいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、みんなで支える地域医療講座で糸魚川市で暮らす、働く魅力を打ち出して、広域的に医師・看護師・医療スタッフを確保する取り組みを話し合いましたか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

3回目の講座で話題に上がりました。講師からは新幹線を活用した広域的な医師確保や、糸魚川地域は男性看護師が少ないため、地域の魅力をPRして確保につなげることなどご意見をいただいております。小さいときからの啓発や中学校の職場体験の継続、研修医に糸魚川の魅力をもっと伝え、残ってもらうことなど話し合いがされました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

男性看護師をつくってほしいと、こんな話が出たということですね。そこら辺非常に期待したいところですね。

みんなで支える地域医療講座は素晴らしい取り組みです。運営のご苦労があったと思います。ただ1つ気になるところは、今はやりのワークショップをして、外注のファシリテーターがまとめをしたその先の現場の問題解決の責任を誰が持つかということです。行政の責任を明確にしていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

地域医療体制を充実するためには、市民・医療・福祉関係者・行政がそれぞれの役割を認識し、実践しなければならないと考えております。行政としては市民の皆様が理解し、行動につながるよう地域医療の現状や取り組み内容の周知に努めるとともに、医療職の確保、医療環境の整備など地域医療体制の充実に向けて積極的に取り組んでいきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私、これ以上、行政の責任論を論じるつもりはないんですけれども、現場で何が起きているのか

を見て、聞いて、感じて、課題を明確にし、解決のために向き合う。問題を先送りしたりスルーしない、そのことが行政というか公務員である皆さん、お一人お一人の務め、役割ではないかと思えます。その点、担当課長はご苦労されたと思いますが、改めて現場と向き合い、市民と危機感を共有することについて、横澤課長の思うところを伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

市民の安心・安全を守るために地域医療の確保・充実は非常に重要な施策です。医療体制を確保する上で、医師や看護師など医療職の確保、医療施設の整備、365日24時間の救急医療体制の維持などが挙げられますが、どれも大きな施策で課題も多く、病院や医師会、県との連携や協力が必要なければ効果的に進めることができません。関係機関と良好な関係を保ち、情報交換を密に行いながら情報を共有し、同じ方向に向かって一緒に取り組めることは一緒に取り組むということが大事であると考えております。そこに市民の理解や協力をいただくことで、地域医療体制の確保が、充実が図れるものと考えております。今後も市民、医療福祉関係機関、行政の役割をみんなで共有し、実践につながるよう取り組んでいかなければならないと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

市長、行政、議会、市民が未来の医療体制確保の責任を負う。そのための糸魚川市の条例制定が必要と私は考えます。改めて市長に伺います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々といたしましては、今、非常に厳しい環境にあると思っております。そういう中で、この我々のこの地域から病院が1つなくなって、今、糸魚川総合病院になっているわけですが、その中で非常に他の都市に先駆けて危機意識を持ったわけでございまして、その中で今取り組んでいるわけです。そして今、条例と申し上げていただきましたが、今、国の制度が大きく変わったことにより、地方に医師が来なくなった1つの偏在が生まれているわけです。そういう中で、その辺の状況を考えたときに、県の体制、また国の体制をしっかりとやはり現状を訴えながら進めていかなくちゃいけないと思っております。それがもう少し具体的に見えるようになってきたときに、我々の方向性なり考え方を条例の中で位置づけをすることはいいと思っておりますが、今の段階ではなかなか先が見えません。特に新潟県は厳しい医師不足の環境にある中において、県も今大きく捉えていくと思っております。そういう中で我々は、それより先駆けて危機意識を持ち合わせ

た都市だと捉えておりました、その辺は、この現状のこの課題を解決することが今先決だということで行動させていただいているわけですので、私は今の状況をもうしばらく続けさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

国・県に配慮したご答弁だったと思いますけれども、市長がおっしゃっていたとおり糸魚川は医療体制確保は非常に大変なわけですね。それをみんなで共有しようと、危機感を共有しようと。それにはやはり骨が必要ですね。そのための条例、私は必要だと思います。いかがですか、条例制定についての勉強会を庁内で立ち上げていただけませんか。私は私なりに議会の中で勉強会を持ってみたいと思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

端的に申し上げますと、やはり条例は理念条例であっては効果も出ないわけですので、それには少しやはり切り込んでいくものが必要になっております。理念条例だけでは医師確保、看護師不足は解決できないと思っておりますので、その辺を考えた中での答弁とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ですから理念条例にとどまらず、機能する条例というものを糸魚川市が考えてやれば、医療を使った糸魚川市の地方創生、これがやれるんじゃないですか。国からの支援も受けられるのではないのでしょうか。県もほっておけなくなるのではないのでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

ご承知のとおり、医師不足といいましょうか、地域の医療科目が、病院が1つなくなることによって減少していく中においては、当然、県・国にその旨を要望して上がりました。直接行って、この状況を訴えたこともございます。そのようなことをした中で、現状を今進めているわけでありませう。私は、その糸魚川市がほかの都市に比べて、今医師不足と申し上げておるわけですが、しかしほかの都市に比べては、やはりいい部分も今生まれてきているわけですが、ですから、この状況を進める中において、他の都市と共有できるような状況になれば、それは当然県・国の制度の中で取り上げていただけたらと思う思っておりますが、そういう今糸魚川市の現状をどのように確保していけるか、非常に今、産婦人科のご指摘もいただきました。毎年毎年これは本当に厳し

い環境にあります。1年ごとにそれができるかどうかという瀬戸際にあります。しかしそういったやはり安心して住める環境というのは、絶対必要なわけがございますので、それは絶対確保していきたいということで取り組んでいるわけでありますので、理念的なところでまた我々もやはりいつ何時いろんな対応・行動をしなくてはいけないわけでありますので、自分たちのつくったもので少しやはり行動が鈍るようなことのないようにしていかなくちやいけないわけがございますので、その辺がもう少し見えるようになってから、私はやはり切り込んだ条例が必要になるんだろうと思っておりますので、理念だけではすぐ立ち上げない考えでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

理念だけの条例というところの根本から考え直す必要がありそうですね。この条例づくりは行政と議会だけの話ではなく、まさに市民のための条例づくりです。市長、1つその課題を共有しませんか。よろしく願いいたします。

では、続きまして、ジオパークの成果について伺ってまいりたいと思います。

米田市長が号令をかけて進めるジオパークですが、市職員の中で24ジオサイト全てめぐった方は何人いるか。また、ジオパーク認定ガイドは何人いらっしゃるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

24サイトを全てめぐった市の職員の数は承知しておりません。

また、ジオパーク認定ガイドにつきましては、現時点で37人でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう一つ伺います。

今後、ジオパーク事業を続けることを支持する市職員はどのくらいと考えますか。ジオパーク事業継続市内支持率は何%と考えますか。これは市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

支持率というような調査をしたことはございませんが、しかし、今我々が進めておりますジオパークの理念に沿って今事業を展開している職員の中で、その中で事業の中で取り組んで効果を発揮するよう指導させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ジオパーク事業の収支について伺います。

これまでで収入の主なものは何か。支出の主なものは何か。それぞれ幾らか。先ほど20年で4億6,000万円かかったという説明があったかと思うんですけども、そんなもんじゃないと思うんですよね。1年間で1億円から1億5,000万円かかっていますので相当かかっているんじゃないでしょうか。この詳細を担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほど市長の答弁にもありました約4億6,700万円というのは、人件費を除いた金額でございます。その内訳といたしましては、歳入では、国県の支出金ですとか、交付金が約2億500万円、合併特例債が1億1,600万円、あと各種繰入金が2,400万円が主なものでございます。一般財源は、約1億500万円となっております。

次に、歳出でございますけれども、看板ですとか、解説板の整備費が約1億700万円、ジオパールの展示費用等が約9,700万円、糸魚川ジオパーク協議会への負担金が7,300万円ということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

わざわざジオパーク推進室を設けて職員を配置しています。これまでの人件費の総額は幾らですか。東京事務所を張って長年職員を配置しています。これまでの総額は幾らですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパーク推進室の人件費の総額につきましては、約4億3,000万円でございます。また、東京事務所の職員の人件費につきましては、約8,900万円ございまして、その他の経費を合算しますと1億1,200万円ということになっております。東京事務所の件につきましては、一部日本ジオパークネットワークからの負担金も入れておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

このジオパーク事業を地方創生のための投資と考えた場合、その効果について点数をつけるとすれば米田市長は何点をつけますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり、1987年からフォッサマグナと地域開発構想ということで糸魚川市は貴重な地質資源を生かしたまちづくりをしていこうということで取り組んでまいっております。そういう中でミュージアムをつくったり進めてきたわけですが、やはり糸魚川市単独で進めているときにはやはりなかなかこのミュージアムについても入館者が減少傾向にあったわけでありまして。そういう中で、我々はある資源を生かしたまちづくりというところがやはり一番大切という、進める中においてジオパークのこの世界の活動を情報を得てから、それを日本で展開する中においては、やはり仲間づくりが大切なという形の中で、この世界認定も含めながら取り組んでまいりました。現在、糸魚川を含めて44のジオパークがございます。そして今、そこではやはり糸魚川の情報発信もさせていただいておりますし、また、仲間の情報発信もしております。そういうネットワークが今広がってまいっております。その自治体の数におきますと200を超えておりますし、また世界のユネスコジオパークになったということで、140の世界のジオパークの中にも糸魚川ジオパークというのが位置づけて、情報発信の場にもなっております。そういう中で、我々といたしましては、全国、世界に名前が今出ている状況であります。しかしながらまだまだ世界遺産と違って、そんなにやはり広く知れ渡っている事業ではございませんが、それを今広めていきたいということで進めております。保護、保全、教育、地域振興ということのユネスコのジオパークの基本理念が非常に活動的にいいということで今国会の議員の議員連盟も設置をいただいたところでございまして、どのような効果でどのような点数かというのはなかなかつけられませんが、そういった今広がり、またそういう応援があるということはそれなりのやはりこの活動の評価をいただいております。応援をしているということは、それだけのやはり機能が発揮できるのではないかと考えていると思っております。ぜひ今10年たったわけですが、これからのやはり糸魚川の情報発信や、また交流人口の拡大の中でどのようにしていくかは、やはり検討をしっかりとしていかなければいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の地方創生のために、このジオパークというものを活用していくということで、市長の取り組みは100点満点だと私は思っているんですけども、ただこれを市民の皆さんが評価するには、その物差しがどうなっているかということも含めてなかなか点数がつけられないところがあるかと思っておりますけれども市長いかがですか、市長は100点ということでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私自身がやはり自信を持ったり、やはりそれだけのこのしっかり進めなくてはいけないという気持ちを持たなければ前へ進まないわけでございますので、私本人は、これは立派な活動だと思って取り組んでいるわけでありまして。しかし、ご承知のとおり、今非常に対応性といいましょうか、非常にいろんな情報を共有したり、情報がたくさんある中においてはやはり市民の皆様方におかれましても非常にいろんなやはり情報や知識を持ち合わせている中においては100%ジオパークが有効な活動だと思っていない人も数多くいると思っております。非常に価値観の相違というのは多いわけでございますので、それは理解いたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

さて、日本国民がジオパークについての理解を深めるのに最も有効と思われる知的好奇心あふれる大人のためのテレビ番組「ブラタモリ」、これがなぜ糸魚川には来ないのか、これは担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長 〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

各地のジオパークが「ブラタモリ」に取り上げられておりまして、私もなぜ取り上げられないのかというのは非常に残念に思っているところでありまして、まさに糸魚川ジオパークを舞台に番組をつくっていただければいい番組ができるのではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いいと思っているだけじゃなくて、戦略をつくるべきだと思うんですね。伊豆ジオパークがJR東日本のたしか大人旅のコマーシャルが始まっていて、吉永小百合さんとジオパーク、いいですよ。伊豆が選ばれた理由を私考えたんですけども、吉永小百合さんがデビューしたころの映画、伊豆の踊り子というのがあったと思うんです。そことフックしたのかななんて思っているんです。いろんなことを理由に、糸魚川のジオパークにタモリさんを呼んでこないといけないと思うんですね。それでブラタモリがなぜ人気があるか、そのコンセプト、構成、編集、演出を分析をしていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長 〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ブラタモリにつきましては、タモリさんが地図を片手にまちを散策いたしまして、独自の視点からまちの変化ですとか、変化のいきさつを地理的、または地質的に掘り下げておりまして、また各地域において地域の案内人が一緒に散策することによって、市民の目線からわかりやすく解説されているところが人気があるところではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ネット記事によれば、制作コンセプトは下を向いて歩こうということで番組スタッフの徹底的なリサーチと取材中も編集でも資料を丹念に読み込んでつくられる番組構成をベースに、タモリさんの予定調和ではない自由な言動が、むしろその土地の魅力を引き出していくという演出によって全国の視聴者になるほどそれは気づけなかった。日本にはこんなすごいところがあるんだと知っているだけで、地元の人たちにもたくさん新たな発見があり驚いてもらえるような番組をつくっているとのこと。参考にし、糸魚川ジオパークの戦略も見直してはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長 〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパークを楽しむためには、おっしゃるとおり車とか、自転車ではなくて、歩きながら下を向いたり、崖を見たり、歩くことによっていろいろ新たな発見があったり、いろんなところに興味が出てくるというふうに思っておりまして、今、各ジオサイトへの誘導板ですとか、解説板があるんですが、そういうものを含めて、歩きながらですとか、自転車に乗りながらスピードを落として周りを見て楽しむような工夫も必要であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私の問いは、ブラタモリの番組構成を参考にして、糸魚川のジオパーク戦略を見直したらどうだということを伺っているんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長 〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市民にわかりやすく楽しんでもらえることが重要であると考えておりますので、またジオパーク戦略プロジェクトなどに位置づけをして取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長はさきの吉川議員の一般質問に、ジオパークは市民と一体となって進めると答弁しました。この市民とは誰のことでしょうか。ジオパークの問題は、24ジオサイトと集落や地域とのかかわり方、住民の理解や協力の仕組みがわからないことです。集落や地域を豊かにして喜ばれているところがあれば、具体的に挙げてください。現地へ行って、見て、聞いて、感じてきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市民とは住民ですとか、地域、地区、事業者を含めた全ての方が対象であるというふうに考えております。また具体的な事例につきましては、例えば小滝地区では、高浪の池ですとか、フィッシングパーク等の管理運営を行いながら、また去年は宝石の国展とコラボした食堂のメニュー開発をされているほか、市民、住民が主体となってまるごとウォーキングですとか、イワナ・マス祭りなどのイベントを開催するなど地域活性化に活用をいただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

筒石・浜徳合ジオサイトでのしだれ桜を生かした住民イベントへの支援と、筒石駅の活用について、能生事務所と担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

土田能生事務所長。〔能生事務所長 土田昭一君登壇〕

○能生事務所長（土田昭一君）

お答えいたします。

徳合地区では、毎年徳合いきいき推進協議会主催によりまして、「枝垂れ桜と菜の花を巡るハイキング」が行われております。当日は、浜徳合の公民館前に朝集合いたしまして、県道コースと山道コースに分かれまして、それぞれの散策をお楽しみいただいております。毎年春になりますと、イベントの代表者の方から企画日程が決まった時点におきまして、能生事務所にご案内をいただいているところでございます。この情報をもとにいたしまして、能生事務所のほうでは、ケーブルテレビの文字放送、テロップによりまして、皆さんにご案内をさせていただくほか、広報のおしらせばん等も掲載をさせていただきながらご案内をさせていただいているところでございます。

また、現場のほうの企画内容をケーブルテレビの職員が取材に参りまして、そちらのほうの情報もニューストピックス等でご紹介をしているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

筒石駅に関しましては、トンネル駅ということで全国でも珍しい、地下鉄とかではないトンネル駅で珍しい駅でございますので、まず鉄道ファンというところを意識したイベント、またえちごトキめき鉄道のリゾート列車「雪月花」の立ち寄り駅というポジションもございます。それらと今ほど能生事務所長が答弁いたしました周辺の財産、それらを融合させたようなイベント活用というところを今後検討していく余地はあるのではないかなというふうに考えております。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひ進めてください。筒石、浜徳合、徳合、仙納、そして筒石とぐるっと回るループ状のしだれ桜の風景街道には、日本の原風景がそろっています。これをもっと生かしたい。ブラタモリの活用ならあえて徒歩で半日ゆっくり楽しむロケーションツアーがいいと思います。健康にいいし、食事を出せばお金も落ちます。一番の見るべきものは桜ですが、筒石漁港と町並み、高台、地層の露呈、棚田、ため池、昔の校舎、古民家、城跡、カタクリの花、山菜、坂道、神社、鉄道遺構、珍しい祭り、そして温かいもてなしがあるイベント、珍しい地下駅、しかもリゾート列車「雪月花」がとまる駅、これらを生かし、にぎわいと活力を生み出すことが本来のジオパークの運営なんじゃないかと思うんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長 〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員ご指摘のとおり、この筒石・浜徳合ジオサイトには、美しい日本の風景があると思っております。また、枝垂れ桜の里への回り道は日本風景街道にも登録されております。ジオパークの活動は、地域資源を活用して、それを保護保全しながら地域経済にも寄与するということが理念でございますので、ここでの取り組みは、まさにジオパーク活動であるというふうに思っておりますし、冒頭議員からの発言にもありましたロック・グリーン・カフェの考え方にも合致する取り組みであるというふうに考えておりますので、今後これらを生かすよう、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ジオパークを理解する概念、ロック・グリーン・カフェを楽しむツアーについてお話をいただきましたが、ジオパークを市民と一体となって進めるには、地域住民が暮らしと生活を見直すこと、

また、住民には当たり前の景色や暮らしぶりが訪れた者にとっては非日常の景色であり、おもしろい体験、あるいは癒やされる体験というのに気づきを得ること。つまり、生活イコールライフと行楽イコールリゾート、これをあわせ持つライフアンドリゾートの地域づくりがジオパークだと私は考えています。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークは、やはり今まではどちらかというところ、自分たちのところには何もない、それは当たり前前の風景であったり、当たり前前の資産だったわけでありますが、ジオパークによりまして貴重な、やはり資源であり、貴重なものなんだということがこの位置づけのやはり第一義であったわけですが、それが今終わったと思っております。今度それをそこに住んでおる方々とどのように生かしていくか。そしてこの行政の立場、役割、また市民の皆様方のこの役割、そういうものをやはりどのように連携をしていくかというところが大事になってまいります。そのやはり地域に住んでいる方々の活動や行動、必ずしも1つのやり方ではないと思っております。いろんな考え方やいろんなやはりこの歴史文化があるわけがございますので、そういったところとあわせながらこの次の段階でそれを情報発信していけるようにしていきたいと思っておりますし、モデルになるような小滝地区みたいなものがあるわけがございますので、そういったところとやはりしっかりとあわせながら、市内全域に広めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

であるならば、今後のジオパーク事業の展開は、ライフアンドリゾートの視点で、各課が連携することが必要と思います。この点、企画定住課と商工観光課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

複数の課にまたがりますので、私のほうから総合的なところで、お話をさせていただきたいと思っております。

確かにジオパークの活動というのは、24のジオサイトがあつて、あと地域の特性を生かした地域活動であると思っております。その大地の上で暮らしてきた人々の営みもジオパークの要素であり、大きな魅力があるというふうに思っております。具体的にいうと、例えば下早川地区でいうと、月不見の池を活用したりとか、西海地区の海谷溪谷、それからあと小滝ではヒスイ峡を使ったイベント、こういうことで地域活動もこうやっておりますけれども、特に関係的には商工観光課の部分も含んでくる部分もございます。また、さらには教育委員会の公民館の活動も含んでまいりますの

で、こういった複数の関係課が取り組んで、何とかジオパーク、地域の活動を盛り上げていきたいというふうに取り組んでおりますので、そういったところで横の情報の共有というのは大事に思っております。そういった中で何とかこのジオパークを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

進めていきたいということであれば、このライフアンドリゾートのライフの部分で行政はちゃんと見てほしい。筒石では駅が無人になれば利用する子供の安全が心配だという声があります。人を配置すべきではないでしょうか。加えて、子供や高齢者のための交通、バス路線は確保されていますか。建設課と商工観光課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

筒石駅に関しましては、管理を行っております、えちごトキめき鉄道が監視カメラですとか、押しボタン式の非常ボタン、さらには警備会社、糸魚川駅と直接通話が可能なスピーカーというものを設置をいたしまして、安全確保に努めたいということで、これらについて地域の皆様に説明会をさせていただいたところでございます。

また磯部地区に関しまして、バス路線に関しましては、路線バス仙納線、労災病院線、コミュニティバスに関しましては、大洞線が運行されております。ただ、筒石駅に直に乗り入れる公共交通体系というのがございませんので、今後住民の皆様と意見交換を重ねる中でその辺の利便性向上というところと効率性のバランスを地元の皆様と考えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

筒石駅につきましては、特徴的なジオポイントの1つであるというふうに考えておまして、いろんな地形的な話題ですとか、さまざまな歴史があるというふうに思っております。駅自体が無人化になることは非常に残念でございますけれども、引き続きジオパークの資源の1つとして活用をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

残念というんじゃなくて、やはり住民の皆さんの安心につながるようなことをやってこそ、ジオ

パークが進んでいくだと私申し上げているので、よろしくをお願いしますね。地域の方とよく話をしてください。

筒石の漁港、漁業がライフになります。港は整備されていますか。水揚げはどうですか。徳合の農業がライフです。棚田は守られますか。空き家となった古民家はどうなりますか。まず、ライフへの行政対応があつてリゾートにもなるのがジオパークだと思います。農林水産課と商工観光課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

筒石の漁業につきましては、メギスを初めとした底引き漁業が主軸であります。取り組みとして、滅菌海水装置、それからシークーラーなどを整備をしまして、鮮度維持による高付加価値化に取り組んでいただいております。

また漁協につきましては、魚価の安定と収益性を高めるために加工事業を強化をしており、引き続きこの支援に努めてまいりたいというふうに考えております。

一方、徳合の農業につきましては、中山間地域等直接支払交付金、この取り組みを契機に地区内での話し合いを進め、中心となる担い手、それから残すべき農地を明確化し、耕作放棄地の防止に取り組んでおります。また、遊休農地でも山菜の栽培等を地区民一体となって行っていただいて、耕作放棄地の解消にも取り組んでいただいております。これらを通じて、農業、棚田の保全に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

筒石地区の漁港ですとか、町並み、また船小屋等は、日本の漁村の原風景でありまして、また日本海でとれた魚介類は漁業の文化を含めまして、筒石・浜徳合ジオサイトの大きな魅力の1つであるというふうに考えております。今後ともこの魅力をジオパーク活動の中で内外に発信してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、蓮華温泉、木地屋の里の活用と運営への支援について関係する担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

木地屋の里では、民俗資料館、休憩施設の栃の木、この2棟を木地屋の里施設管理組合に市のほうで指定管理をお願いをして、管理運営をしていただいております。管理運営組合の皆さんからは、現在スタッフの確保、それから安定した経営収支が大きな課題であるというふうにお聞きしております。市としましては、これまで少し運営を任せっ放しにしてきたのではないかなという、そんなことも考え、少し反省をしているところでもありますけれども、課題を共有しながら庁内の連携を図って、これらの支援に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長　〔商工観光課長　大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

蓮華温泉は、白馬岳など北アルプスの入り口でありまして、登山バスの運行支援のほか、登山道や案内標柱の整備などを行っております。また、登山のほかに温泉ですとか、自然景観など多様な地域資源を有しておりますので、木地屋の里の歴史・文化の魅力を含めて情報発信するなど支援をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

補足させていただきますが、やはり設立当初の考え等もあるわけでごさいます、今任せっ放しというような形で言われるんですが、そういう形だけではなくて、やはり地域の熱意、そして地域のこの活動というものを支援してきた部分がございます。そういう中で一定のやはり年限が過ぎまして、少し後継者不足であったり、そういう状況が老朽化も含めてなっているわけでごさいますので、そういった点についてこれから両方で検討していかなくちゃいけないところに来ていると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原　実君）

昨年の9月28日に木地屋の未来を紡ぐ会フォーラムというものが開催されました。私もそこに出席はしていたんですが、その概要について、また参加者からの意見の主なものなどについて、この機会にご紹介をいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。　〔農林水産課長　池田　隆君登壇〕

○農林水産課長（池田　隆君）

まず白澤東京造形大学名誉教授から講話をいただいております、3つの視点からお話をいただいたというふうに考えております。

1つが保存の目的は明確になっているか。2つ目は、建物の現代性や現在性のお話、3つ目は情

報戦略はありますかということで、ターゲットの明確化の話、それから構造化して捉えるため、座標軸をつくり、何らかの仕掛けがないと活性化しないという、そんなお話をいただいております。参加者からは木地屋の里は資料としての保存はできているけれども、時代に合わせた活用の視点が欠けている。また木地屋の魅力は、自然と民俗文化であって、民俗資料館の道具を飾ってあるだけではなくて、実際に使って体験できるようにすればいいのではないかというような貴重なご意見をいただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

フォーラム講師や木地屋会会長から戦略的な情報発信からインバウンド、市民向けイベント、児童学生向け体験プログラム、ツアーの実施、蓮華への中継点としての道の駅機能の整備など提案があり、今後の施設運営、ジオパークとの関連や観光入込客をふやすことが課題となりました。ただこれ、誰がどう進めますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

木地屋の未来を紡ぐ会では今ほどご紹介いただきましたご提案、ご意見を多く頂戴をしております。去る2月23日に、木地屋の里の中核を担う木地屋会の皆さんが会合開催をし、来年度の活動、フォーラムの振り返りなど課題の整理を行っていただいております。人材の確保を初め、蓮華観光の中継点としての取り組み、民俗資料の魅力発信など課題が出されたところであるというふうにお聞きをしております。解決策だとか新たな取り組みなど、まだまだこれから回を重ねて検討が必要だということで集約をされております。

今後につきましては、管理組合を主体としながらも貴重な木地屋文化や山村資源について、市も管理組合と一緒に活用に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

木地屋地区の特徴的な歴史につきましては、地形ですとか、森林、木地の加工のなりわいとも絡めまして、引き続き情報発信に努めてまいりたいというふうにご考えております。

また、体験プログラムやインバウンド対応、蓮華温泉の中継地点としての活用等につきましては、今後地元の方の意見もお聞きする中で取り組んでいく必要があるというふうにご考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

木地屋の皆さんも高齢化で大変なところにきていますね。早く進めていただきたい、このことをお願いしたいと思います。

フォーラムの講師からは残すには変わることも必要だ。あるいは存続に必要な変化、変形には新しい知恵が必要だとの指摘がありました。そこでスノーピーク社からのアドバイスを受けてはどうかという提案になるのですが、最近隣の白馬村とスノーピーク社が包括連携協定をしたことはご存じですよね。この目的は、何でしょうか。また、どのような効果が白馬村とスノーピーク社にもたらされると考えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

白馬村では、近年外国人のスキー客が急増しているものの、国内客は逆に減少しているということから、スキー市場の拡大が見通せないため新たな顧客の開拓を目的としまして、スノーピークと連携協定を結び、山岳景観を生かした通年型の観光施設を建設するものであるというふうに思っております。その効果につきましては、国内外を問わず、通年で観光客が訪れ、にぎわいや経済効果が期待されるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

スノーピーク社の山井CEOに木地屋の里やジオパークの新しい運営を相談してみてもいいかでしょう。白馬を変えるプロジェクトを進める知恵と企画力にさまざまなことを学び、ジオパークに必要なチェンジは何か、チャレンジすべきことは何かを知るチャンスは今つくるべきだと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

スノーピーク社は県内の企業でもありますし、またアウトドアのグッズ等をつくっている会社でもあります。ジオパークのアクティビティといいますか、体験型の観光ですとか、そういうものに通じる場所があると思っておりますので、機会があれば、ぜひ懇談をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

懇談と言わず、民間の本物の知恵、企画力、これ盗んできてください、言葉は悪いかもしれない

けれども。そのくらいの気持ちで当たらないと、山井さんは相手にしてくれないと思いますね。糸魚川も真剣だということを見せて、ぜひ連携をして、糸魚川の新しいジオパークの観光を進めていただきたい、このことをお願いしたいと思います。

では、復興再生まちづくりの2回目の質問でございます。

新鮮な食材が買える施設の設置、日常的なにぎわい創出、まちなか図書館と、相馬御風学習館の設置、駐車場の設置と管理運営、検討をしてきていただいていると思いますが、それぞれ担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

農林水産課で所管する食彩館のような直売所ということでお答えをさせていただきます。

12月議会の一般質問でも答弁をさせていただいたところでもあります。繰り返しになって大変恐縮ですが、今の人口だとか、人どおり、車の往来などからJAひすいでは売り上げ採算性、継続性を考慮すると店舗の設置は困難であるという判断をされております。一方、無人の野菜店舗を検討されておられる生産者の方がおられるということもそのときお話をさせていただきました。その後、その方ともお話をしましたけれども、陳列した野菜の管理、代金の管理などでどうすればいいか今検討をされておまして、具体的な決断に至っていないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

生涯学習課のほうでは、図書館と関連するわけではありますが、図書館や学習スペースにつきましては、人が集まりやすい場所であるということ認識しております。町なかへの回遊につながる経済活動がここと連動することが重要であるというふうに考えているところであります。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

日常的なにぎわいをどのようにつくるのかといった部分でございます。やはり近隣の人々を含め、市民の皆さんが日常的にあそこに集まっただけ、あのまちの中で集まって楽しくしているという部分、そういった雰囲気、そういったイメージが大事じゃないかなと思っております。そのような1つの仕掛けとして現在創出広場等つくっております。その中でどのように使っていくか、どのように集まりやすい施設にしていくかというあたりが重要なことだろうというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

相馬御風学習館ということについてお答えいたしますが、市長の答弁にありましたように、今後のエリア全体のまちづくり構想を考えていく中で、私どももできることがどういふことがあるのかというのを考えてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

駐車場の部分についてお答えさせていただきます。

先ほども市長の答弁にありましたとおり、やはり限られた土地利用の中で回遊していただけるに足りる駐車場について、設置は今後計画して整備してまいりたいと思っておりますし、既存の店舗等で特に金融機関等になりますが駐車場もあります。日常的にというのは厳しいかもしれませんが、祝日、祭日等のそういったところで営業に差しさわりのない中での駐車場利用についてご協力をいただくようにしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

やっぱり日常的なにぎわいが欲しいと皆さん言ってるわけなんですね。それで私も質問しているんです。新鮮野菜やその加工品をつくり、販売する人と場所がぜひ欲しいですね。いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

市長の答弁にもありましたように、現在も近隣に食料品等のお店が営業されておりますけれども、これから復興住宅に入居者が入って、またにぎわい創出広場などが完成するなど復興が目に見える形で進み、事業環境が整ってくれば、出店の意欲が出てくるのではないかというふうに考えております。このため、農林水産課としましては、引き続き生産者、それから関係者に働きかけていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

県の指導のように米から園芸への転作を進めて、つくったものを被災地の販売所で売る。農業と商業と日常的なにぎわいの創出、これを早く進めるべきなんです。市民に寄り添うというなら、なぜこれをやらないのか、その理由を逆に私伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田農林水産課長。〔農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○農林水産課長（池田 隆君）

なかなか直売所ができない理由の1つとして売る品物がないということもJAひすいからお聞きをしているところであります。直売所に必要な品物というのは、特定の作物を大量に生産することよりも少量でも多品種を生産して、多様な消費ニーズに応えるということが必要になります。繰り返しの答弁になりますけれども、引き続き生産者、関係者に働きかけをしていきたいというふうに考えております。また、この課題につきましては、JAだとか、生産者だけでなく、先般行ったリノベーションスクールだとか、ビジネスチャレンジなどからも検討いただければ可能性というのが広がってくるのではないかなと。産業部全体で情報を共有しながら今後も取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

検討と可能性という言葉をいつまで聞いたらいいんでしょうか。

質問を変えます。にぎわい創出広場に雁木と建物を連絡するひさしのついた通路と新鮮野菜や加工品を販売するオープンスペースをつくるべきだと私は思います。また、建物のトイレは、このスペースからも直接利用できる設計とすべきだと思います。近隣住民の皆さんは、そういったものをつくってほしいと要望しているんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

ひさしにつきましては、雁木と建物の間というひさし等につきましては、やはり基本的に広場使いをメインに本町通り側から建物が離れているわけですので、そこに建物という考えは現在持っておりません。

それから野菜等直販のスペースというのは、やはりオープンスペースを使ってやっていただくことは可能ですので、またそういったところでの直売所とか、そういった仕掛けというのはまたいろんな形で農林水産課とも協力しながら進められるものについては、特に地元との、またお話も必要だと思いますので、そういったあたりで模索していきたいというふうに考えております。

それからトイレにつきましては、いろんなご要望があります。24時間使いというご要望もありますが、やはり余り深夜までフルオープンにしておると、不審者等のまたそういった心配もあるというのも近隣の皆様からお声をいただいております。そういった中で施設がオープンしている時間帯はご自由に使っていただけるというのを基本に考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

広場敷地の東側には、消防車両を駐車したり、それから屋台を置くという計画だそうですね。配置と使い方の詳細について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

消防車両を置くというのは、日常的に置くという、そういう意味ではございませんで、緊急時、火災時とかについて、あそこに200トンの防火水槽があるので、採水しやすい位置に消防車両を置くとか、消防活動のときにあそこの広場に入れるようにしておく。緊急時に対応するための考え方でございます。

それから屋台につきましては、今マルシェ等でやっているような、ああいった屋台が外でも置いて並べて、建物の中で飲食してもらおうとか、そういったイメージの中で使っていただけるようにしているということです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それは、日常的なにぎわいに結びつくことですか。無駄な配置計画ではないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

やはり日常的なにぎわいも大事ですし、あとイベント時の使い勝手、そういったものも広場としては重要だというふうに考えて、現在の配置を考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、次の質問です。

市民会議の成果について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

市民会議につきましては、先般、7回目に米田市長、それから猪又商工会議所会頭のほうへ今まで会議を進めてきた成果についてのご提案、ご意見等をいただいております。今後は、活動につながっていくご提案等については、活動につながるように、また市民会議の皆様と連絡をとりながら進めていきたいというふうに考えておりますし、今後のまちづくり、そういった中にいただいた意見を取り入れていかなきゃいけないものがたくさんございましたので、そういったものは、今後のまちづくりの中に取り入れていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民会議の結論を市が誘導したとの話を聞いています。それで市民による未来会議と言えますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

市民会議の運営上で、特別市民参加者の皆様の誘導した、そういった部分については、我々はそういったつもりでやってはおりません。いろんな形でご提案をいただきたいということで、会議のほうは進めてきております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

設計、コンサル、まちづくり会議などの外部委託の責任者は誰でしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

発注者である糸魚川市であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

担当者は誰ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

それぞれに担当はありますが、やはり課の仕事を総括している私が責任者だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

委託料は幾らかかったか。また、幾らかかるのか。その財源は何か。詳細を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

現在、今までで広場関係の設計等で約4,500万円、リノベーションスクール等で850万円というのは市長の回答させていただいたとおりであります。今後につきましては、リノベーションスクール等も展開していきたいというふうには考えておりますが、これからその内容については、何年までやるかというあたりも含めて検討していかなければならない。

もう1点、広場関係につきましては、現在、建物の設計を進めておりますが、次年度は、その管理業務が出てくるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私が聞いているのは、そんなポイントだけじゃないんですよ。木村副市長においでいただいたころから、しきりに会議をやってますでしょう。あれみんな委託してましたね。だからあれ幾らかかっていますかと聞いているんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

会議等につきましては、おおむね今までの中で、この復興といいますか、平成28年からになりますが、会議進行等についての委託費については150万円ほどかかっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

外注ありきの計画推進になっていませんか。結論ありきの行政事務主導型会議を繰り返していま

せんか。たくさんの税金を使い、人を動かしていますが、心配なのは行政の責任です。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

当然今までの計画づくりや、今後の事業におけるそういった会議、そういったものの部分、それから責任というのは、やはり行政でやる部分については、行政が持っていくべきであろうというふうにも考えております。

それから基本的には、結論ありきでいろんな会議を進めているわけではありませぬので、できるだけ今回しかけている会議については、できるだけ多くの方に参加していただいて、多方面からのご意見をいただくと。そして次のまちづくりの計画や実践につなげるといったことを念頭に進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

行政としましては、先ほど来お話のある行政主導型であってはならない、まちづくりにとってはやはり市民の皆さんと意見を交換して、しっかりと皆さんとともにまちづくりを進めていくといった上においては、やはり会議といったものについては非常に重要なものであると考えております。何回もと言われますが、やはり何回も重ねて、その上で市民の皆さんの意見をしっかりと聞くといったことが大事だと思っておりますし、ましてや結果ありきではなくて、皆さんのいろんな意見をお聞きしながら進めてまいりたいというふうを考えております。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、雁木の連続性と統一感についても伺います。

以前より私は雁木とは何ぞやということで、町屋と一体の雁木の構造、木の意味についてお話をしましたが、ご理解をいただいたのでしょうか。しかし、市でつくったものに対する市民の評価は、例えば1カ所のものは、門のようなものだと、雁木ではないという、そういうご意見をいただいております。さて、残った部分の雁木はこの後連続してつくられていくのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雁木は本来母屋と一体的につくられるものでございますけれども、母屋と切り離れた4本足の独

立した雁木につきましては、市が施工したものが第1号であります。母屋がない分、雪や雨の吹き込むことは多少ふえると思いますが、来訪者へのおもてなしの気持ちはあらわしているのではないかというふうに考えております。今後も景観・不燃化ガイドラインに基づきまして、既存の雁木とも調和を図る中で、できるだけ連続するように協力を求めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

雁木と町並みをつくる責任者は誰ですか。いつまでにつくりですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

雁木、町並みについてはやはりそこで暮らす、事業をされている、そういった方々がつくっていくべきものというふうに考えております。その中でどういうふうに景観をよくしていくか、そういったあたりのものをガイドラインとして行政としては示しておりますので、その中で進めていただくということではなかろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それで市が責任者と言えるのでしょうか。皆さんにつくってくださいとどれだけ頭を下げましたか、お願いに上がりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

雁木の策定に関しましても沿線の皆様と現地見学、先進地視察も含めて、5回勉強会を重ねておむねの方向性を決めました。その後、代表の方からなる検討委員会のところで、まず雁木のあり方というところを考えまして、ガイドラインというものを策定いたしました。当初は、従来の軒の伸びた形というものを雁木を想定して、私どももガイドラインを策定しておりまして、実際そのガイドラインに沿ったような雁木も何件ができておるところでございます。ただ、なかなか思うように再建したいという声は当初からあったんですけども、なかなか再建が進まないという実情も見まして、また関係者の皆様と意見交換をさせていただきました。その中では、どうしても自宅の前に車を置きたいんだと。これまで駐車場が離れていて大変だったし、また年をとってくるのであるたけ車の近いところがいいとか、あと中には、自分の店に来てくれるお客様のために、自分の近く

に駐車場を、数はわずかですけれども、確保したいんだというような声を受けまして、また検討会のほうに持ち帰りまして、少し協議をいたしました。その中で自分たちのためにか、通りを訪れていただいた方のために沿線の皆様が自分の敷地を一部、通りとして提供して、加えて雨や雪が当たらないように屋根をかけるといった、そういう雁木の精神というか、そこは守っていききたいと。たとえ4本足独立タイプになったとしても、そういう姿、形は従来型と変わったとしても気持ちの部分というのは残したいということから、私どももガイドラインを修正をして、4本足雁木を1号として今泉屋さんの隣のところにつくったという経緯でございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

おっしゃるとおり、雁木はおもてなしの心の象徴なんですよ。そのとおりだと思います。

さて、にぎわい創出広場及び建物の計画の責任者の方に伺いますが、この設計は、市民や近隣住民の声を聞いてつくられたものなののでしょうか。本当にそうでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

広場につきましては、何回かの意見をいただく会議を設けた中で現在の設計に至っていると。それから設計を進めている途中でも、いろんな方々にご意見を伺う場を設けさせていただいて、その時点での内容の説明やご意見は伺ってきております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご意見を伺いっ放しなんじゃないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

伺いっ放しということではなく、やはりその中でどのように使っていただけるのかを中心にご意見をいただいたもので反映できるものについては、反映してきているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

特別委員会の中でトイレを外からも直接使えるように、また入り口には雪よけのひさしをつくるように、私から変更提案し、斉藤課長に却下されました。それでいいのでしょうか。市民からは市

がつくるのに、雁木から建物に入れれないのはおかしいと意見が出ています。トイレとひさしと雁木の設計を変えない理由を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

今ほどのひさしにつきましては、先ほども申し上げましたとおり、広場使い、広場としての空間を設けておきたいというところ、トイレについては、周辺への配慮という部分も含めて、利便性と周辺配慮といったあたりのバランスをとって考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先ほどの答弁にあったんですけれども、外から使えるトイレをつくると、不審者が来て、周辺住民や利用者に危害を加えるんですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

危害を加えると言ったつもりはございませんで、やはり不審者等が入ってきて、不安を与えてしまうと、不安になるといったところの声を伺っているということです。それから直接使えるといった部分については、あそこの今後つくっていく施設について、施設の開館時間については、少しホールはありますが、直接使っていただけるというトイレを考えているということです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

本当にそれでいいんでしょうか。

では、建設費と運営シミュレーションと完成後20年の収支について説明をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

にぎわい創出広場につきましては、用地費や設計、工事費を含むイニシャルの部分で約3億5,000万円と試算をしております。

それから運営につきましては、今後どのような形でというのを今、民間にお願いしたいということで検討はしておりますが、おおむねシミュレーションの中では人件費及び施設の管理費ということで、年間1,500万円ぐらいかかるのではないかと。ただ、その部分については、やはりあそこの施設利用料で少しでも賄っていきけるようにしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

民間主導の公民連携による施設、紫波町オガールの手法に倣い、本当に必要な建設費や運営費を導き出して計画を進めると私はこれまでも申し上げました。また、そういった方向性については、オガールと一緒にだと、木村副市長も新聞記事等でお話をされております。なぜそうしないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

やはりオガールと基本的な考え方、公民連携といった部分では同じような考え方でいきたいというふうには考えておりますが、今回の施設につきましては、やはり大火復興と、復興の中で進めていかなければならない事業という、要は事業のスピード感、進捗感、そういったところを考えますとオガールにつきましても、あそこまでいくのにスタートまでにやはり2年以上も年月がかかっている。そこまでやはり調整をしながらというのは厳しい部分をどういうふうクリアしていこうかといったところで考えたのが今回進めている事業になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

民間の建物であれば、これ運営が赤字となった今回その赤字を市民につけ回すというやり方になると思いますが、今なぜそれを繰り返すのですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

やはりあそこの単体の経営だけでいきますと、黒字になってくるということは非常に厳しい部分であろうかというふうに考えております。ただ、やはり施設の意義としてはあそこにまちづくりに今後携わる人たちがあそこで集まり、そこからまちづくり活動につなげるといったコンセプトでの広場をつくっていききたいというふうに考えておりますので、そういった効果については、民間の

ほうではなかなか取り組み切れない部分であろうかと思えます。そういった部分は、行政が担う場をつくっていくといったところで行政が担うというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それでは、民間主導の公民連携にならないじゃないですか。全く違いますよね。オガールと違いますよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

オガールを全てあそこに展開するといったつもりで進めているわけではありません。基本的には公民連携のやはりいい意味をあそこに展開していきたいということで、運営については民間の方々にできるだけ自由に使っていただけるようにといったことで考えているということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

立派な考えだと思いますけれども、そういう建物をつくるその考え方の緩さがますます赤字をつくっていくんじゃないでしょうかねえ。斉藤課長が最初にオガールに行ったのはいつですか。何回行かれましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

オガールに行ったのは、特別委員会の皆様と一緒にいったときが初めてですし、そのみでございいます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それにおいても下調べということもあつたでしょうし、全国的に見ても成功例だというふうにおっしゃっていますよね。だったら見に行かなくても糸魚川は十分検討できたし、利用者の方にその話をして、この建物はまず運営から考えますという、そういう会議を持つべきだったのに、なぜそれを持たなかったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

まず、やはり先ほども申し上げましたとおり、オガール等の仕組みについては、やはりその仕掛けに非常に時間がかかるという部分があります。そういった時間の流れの中で大火復興の事業としてどういうふうに進めていけばいいかという中で今回の事業の進め方に至っているわけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私、この運営の計画も本当に民間の知恵でやっていけるのかなと思います。やはり行政主導型の事務的な話の進め方じゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

事業の進め方、当然今までの流れの中でいけば、そういうふうに見られる部分もあろうかと思えます。ただ設計の段階でもいろいろな方々のご意見を伺ってやっている。それから今やっております運営についても、今後やはりしっかりと運営していただける民間さんをできるだけ早く決めて、その中で運営をしっかりとやっていきたいと、やっていただけるようにしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

にぎわい創出広場の建設に幾らかかるか、もう一度確認をさせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

用地費、それから設計監理といった業務委託、それと建物、外構、それからちょっと離れますが、まちなか駐車場、それとあそこに設置したいと考えている雁木、それらを合わせて約3億5,000万円と試算しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

建物を急いでつくる理由も復興を急ぐためというだけでは何のことやらさっぱりわかりません。

にぎわい創出広場の建設に3億5,000万円の金を使うことに対して、計画でアウト、高額建設費でアウト、リスクを市民に回す運営でアウト、スリーアウトチェンジです。終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

市民ネット21、田中です。発言通告に基づき、一般質問を行います。

1、外波地区住宅地背後の山林管理について。

糸魚川市は、面積の76%を森林が占めていることから、住宅のすぐ近くに山林が迫っているところが数多く見られる。糸魚川ジオパーク24サイトの1つでもある親不知のインターチェンジ、ピアパークに隣接している外波地区は、連担している住宅の背後に急斜面の山が迫っていて、樹木が大きく育つと枝を伸ばし、住宅の上にまで接近してくる。大きな風や雨のたびに、住民は災害を心配していたが、先日ようやくのり面ののり砕工付近に伸びた木の伐採が行われ、住民からは安堵の声が聞かれるが、今後も安全対策、環境美化の観点からも計画的な対策が求められるのではないかと思います。いかがでしょうか。

また、同様な課題を持つ他の地域についての把握はどうか。

2、訪日外国人観光客誘致の取り組みについて。

2018年の訪日外国人客数は、初めて3,000万人を突破し、2020年の目標である4,000万人に弾みをつけた。しかし、訪日外国人の訪れる土地は都市部と一部の有名観光地に集中し、地方への誘導施策が課題であり、政府も訪日客が不便なくまち歩きを楽しめる環境づくりを支援する考えを示している。12月定例会における一般質問の答弁によると、糸魚川市の外国人宿泊者数は平成29年度で2,662人であり、増加傾向にあるというが、インバウンドについて考えを伺う。

(1) 糸魚川市を訪れる外国人観光客の国別、団体・個人、目的などの情報把握と各対応について。

(2) 国土交通省北陸信越運輸局が推進する「グランド・サークル・プロジェクト（GCP）」を糸魚川市はインバウンド施策や受け入れ環境整備にどう取り組むか。

(3) 昨年6月に解禁された民泊の糸魚川市での申請状況及びスマホ決済に対応する加盟店の状況について。

3、ペットとの共生策について。

糸魚川市には、平成29年度時点で1,598匹の犬が登録されており、さらに多いのではないと思われる猫も含めると、相当数の方がペットと暮らしていることになる。それだけにペットにかかわる避難時の対応、不妊・去勢、多頭飼育など地域の課題もあり、市の考えを改めて伺う。

(1) 災害時におけるペットの避難を含めて、避難所の開設・運営のマニュアルは作成されたか。また、避難訓練にペットの避難も取り入れる必要があると思うがどうか。